



国分寺市国際協会  
日本語教室・夜間  
学習者とスタッフの  
情報誌(年2回刊)

# かけはし

第52号  
(2021年度 春季)  
2021年6月 発行

## 「かけはし」52号発行に寄せて

代表 まこさん

ワクチン接種が始まりました。予約をするのに電話回線がパンクしたりネットが繋がらなかつたり大変なようですが、学習者・スタッフ全員が早くワクチン注射を受けられるように願っています。

そんな中で編集委員の方が頑張って「かけはし」を発行してくれました。1月からお会いできていないので皆さんの作文を読むのがとても楽しみです。安心して皆さんに会える日が早く来るといいですね。

< 今回 の 内容 >

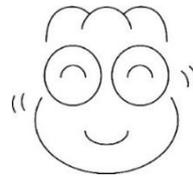
☆ 独占インタビュー

☆ 特集

「コロナ禍にあって」

☆ 新しいスタッフ紹介

## 独占 Interview インタビュー



ゲスト：アッキーさん (中国)  
インタビュアー：えんちゃん

教室スタッフのえんちゃんが、デザイナーを目指して頑張っている中国人の大学4年生アッキーさんに独占インタビューをしました。日本語の勉強の仕方や、将来の夢、コロナ禍での日々、どんな思いで過ごしておられるか、いろいろお伺いしました。

(1) アッキーさんは大学でデザインを学んでますが、どうしてデザインに興味を持つようになったんですか？

アッキーさん：祖父の影響もあり、高校生の時にグラフィックデザインの学校に通い、デザインの基礎を学びました。デザイナーたちはいろいろな媒体を通して、アイデアを形にして、思いを込めて世に残します。生活上で目にした様々な広告や、日常的に使用するものやメディアなどは全てデザインと関わっていることを知り、絵画とも関係があつて、興味を持つようになりました。

(2) クリエイターとしての自分の強み、売りはどんなところだと考えていますか？

アッキーさん：私はクリエイターの卵として課題

に取り組む前に、常に誰に何をどうやって伝えたいのかをじっくり考えることを習慣にしています。情報を収集して、何パターンもの案を練って、納得するまで比較しながら上げていきます。正しい手順を踏んで作業を進めれば、最終段階で作品の制作に集中でき、満足できる作品に自然になっていくと心得ています。

(3) 大学4年生のアッキーさんは就活中ですが、将来はどんな仕事をしてみたいと思っていますか？

アッキーさん：グラフィックデザイナーやwebデザイナーなどデザイン関係の仕事をやりたいです。中国語と日本語と英語の語学力を生かして、専門知識がある通訳者や翻訳者の仕事にもチャレンジしてみたいです。自分のパーソナリティと好みに合う職場で、強みを発揮して、どんな仕事にも責任と感謝を忘れずに取り組みたいです。

(4) ご自分で作られた似顔絵、可愛いですね。

アッキーさん：私の似顔絵は澄ました顔とニコニコ

顔の二つがあります。両方ともデザイン専用ツールで描きました。自分の自撮り写真を見ながら、目が大きくて唇が小さいなどの特徴をとらえて、可愛い似顔絵になっていると思います。ニコニコ顔の方は柔らかい線で表現し、笑顔を描いてより親しみやすさを強調しました。



澄ました顔



ニコニコ顔

(5) アッキーさんの日本語はとてもしっかりしていますけど、どんな風に勉強してきてたんですか？

アッキーさん: 2016年から北京の日本語学校に通い、初めて五十音から学び始めました。家にいる時は両親の指導があって、自習もしました。母が日本語の単語やフレーズをフラッシュカードにして繰り返し見せてくれて、それを暗記したり、父から教科書の内容を教わったりしました。その上、両親は普段日本語でも会話をしていたし、テレビで日本語のバラエティ番組やドラマを視聴するなど、こういう学習を積み重ねてきたからこそ、自然にできるようになったのだと思います。

(6) 日本語を勉強しているみなさんへ何かアドバイスがあれば、聞かせてください。

アッキーさん: 私自身が日本語を勉強し始めた頃からよく父に言われてきたことわざがあって、とても気に入っています。それは「習うより慣れろ」です。意味は人や本から教わるよりも、自分が練習や経験を重ねたほうが、よく覚えられるということです。日本語学習者のみんなもぜひ日本語を勉強する時、練習を重ねて、経験を積み、慣れたらきっと上手くなります。

(7) 去年の春からコロナ感染と向き合う毎日を経験してきて、思ったこと、感じたこと、発見したことなどありますか。

アッキーさん: みんなと同じように不安で、それまでの当たり前がコロコロ変わる状況を過ごしてきました。そして、去年と今年の春休みは中国に帰ることができませんでした。振り返ってみると、もう2年も帰っていません。去年の4月と12月に親から500枚以上のマスクが届き、お世話になっている教会をはじめ、老人ホームや知り合いに送ることができました。たくさんの人を助けることができたことは何よりうれしかったです。

(8) 来年の今ごろ、アッキーさんはどんな風になっていると思いますか。そして5年後、10年後の自分のイメージは？

アッキーさん: 来年の今頃の自分は運が良かったら、新入社員で、スキルを活かして、もしかするとデザイン会社で仕事をするか、大学院生として興味のある分野で研究をしているだろうと思います。5年後の自分は、独立して、フリーランスとして働いているかもしれません。10年後の自分は結婚して、家族を持っていると思います。

## とく しゅう 集

### か コロナ禍にあって

コロナ感染が世界中に広がって、1年が過ぎました。

その間、私たちの中にいろいろな思いや感情がありました。

特に、自国を離れて日本に来ている学習者の皆さんは、オンラインで繋がることができるといっても、自国の家族や友人と一緒にいられないもどかしさや異国の地故の不自由さなど私たちには想像もできないお気持ちがおありかと思います。日本で今、どのよ

うな思いで過ごしておられるのか、学習者の皆さんに書いていただきました。また、スタッフの皆さんにも、未経験の緊急事態宣言が繰り返し発令される中での生活、どのような思いでおられるか、皆さんの声を特集しました。

## がくしゅうしゃ 【学習者】

ユエさん (中国)

「この1年、日本にいてよかったこと、困ったこと」

この1年、日本にいてよかったことはたくさんの人と出会ったことだ。

留学の延長として就職活動に参加し、様々な企業からの話を聞くこと、社員さんと会うことができた。大学で学ばなかった日本の一面を少し知るようになったと思う。最悪でも日本語の練習になるから、全くプレッシャーがない就活は意外と面白い。

大学の国際寮に引っ越しをした。色々な人と卓球の試合をすることは楽しい。ネパール出身の人はラケットの握り方も変なのに、返してくるボールは強く、回転も切れている。やはり油断してはいけない。ここで、多くの人と接する中で友達もできた。もし去年帰国してしまっていたら、こんな出会いも、楽しい経験もなかっただろう。

この1年、日本にいて困ったことは食べたい湖南ビーフンを食べられないことだ。池袋の中華屋さんに行ったら食べられるが、コロナを懸念して電車に乗りたくない。中国の通販サイトから即席ビーフンを購入したり、ベトナム料理店に行ったり、色々な代替品を試したが、結局物足りない。コロナ収束後一番



やりたいことを聞かれたら、帰国して空港に着いてから一刻も休まずにビーフンを食べに行くことだ。

ベベンさん (インドネシア)  
私はベベンです。我が家は妻と娘の3人家族です。

初めて日本に来たのは2012年の夏頃で、もうすぐ9年になりますね。本当にあつという間に経ってしまいました。

ドバイに4年以上住んだ後に、日本語が全く分からないまま、大阪に引っ越してきました。日本に来る前に私は非常に心配していましたが、勤めていた会社はとても親切でお世話になりました。会社もたくさんサポートしてくれましたが、大阪での生活は厳しく、残業で私はほとんど毎日遅くまで仕事をし、週末も仕事をするがありました。私が家にいないことが多いため、妻は寂しさで泣くこともありますが、私は何もできませんでした。しかし、妻は刺繍を始めたのです！妻はYouTubeで刺繍を知り、学んだのですが、何時間もかけてひたすら一生懸命刺繍をして、完成した作品をSNSにアップしていました。SNSでたくさんの方が彼女の作品に良い反応を示しました。やがて自信を深めた彼女は、Etsyというウェブサイトで



作品を販売するようになりました。今では彼女のビジネスはとても大きく成長し、Instagramのフォロワーは2万人近くに達し、毎月のようにお客様から作品の依頼が来ます。皆さんにも是非見てほしいです。

大阪に4年間住んだ後、私は東京で転職しました。住む場所を探すのに3ヶ月かかり、最終的に国分寺にたどり着きました。私たちは自然やカフェが大好きで、東京の混雑から逃れるには良い場所です。

パンデミックが起こるまで、東京の生活は通常通り続いていました。最初にニュースを見たときは、まるで映画のような不思議な感じがしましたが、その後、ついに皆に影響が出ました。家族を持つ人たちが、仕事をクビにされてしまった話をよく聞きます。特にインドネシア人の知り合いです。私と家族は未だにあまり強い影響を受けていないので、本当に良かったです。しかし、このような状況が続けば、私たちが安全であるという約束はありません。我々の将来は誰にも予測できませんが、今から精一杯に頑張ればき

つと良い将来になるとおもいます。

りん  
林さん

たいわん  
(台湾)

「この1年コロナ禍の中、どう過ごしたか？」

1年間、コロナがはやっていた生活の中で、心の中の警戒心をだんだん失っていきました。かわりに台湾にいる家族にはもっともっとあいたい気持ちが増して、時々自分の心が何を考えているか分からなくなりました。

ネットで世界のニュースを見て皆さまが困っている中で、私は日常の生活ができるのになぜ幸せな気持ちになれないのか、いろいろ考えると矛盾を感じ、寂しい気持ちになってきます。早くワクチンを接種して、皆さまが健康になりますように今は祈る気持ちでいっぱいです。

ジラパットさん

(タイ)

「この1年、日本にいてよかったこと、困ったこと」

この1年間、世界的に色々なことが起こりました。そのうち、新型コロナウイルスが一番議論されています。日本だけではなく、他の国も問題が発生しました。人生が進むように、新型コロナウイルスに心じて生き方をさまざまに変えないといけません。もちろん、私も避けられません。

去年の4月に入社して、ずっと在宅勤務をしています。困ったことではないですが、友達とあまり会えないし、出かける時も心配だし、とてもつまらない日々を送っています。3月中旬、日本は全体的にコロナ状況がちょっと良くなったので、名古屋旅行をすることにしました。2泊3日友達の家泊まっています。「ホームステイ」みたいな感じで、楽しかったです。この旅行は良かったことだと言えます。ポストコロナ時代になったら、もっと国内旅行をしたいと思っています。

グエンさん

(ベトナム)

みなさん、こんにちは。日本に住んで1年が過ぎました。いろいろなことがありました。読んでみてください。

一つ目は日本に来てよかったことです。自立生活ができました。わたしにはベトナムでいつもおかあさんとお父さんが料理を作ってくれました。なんでもやってくれましたが、日本では全部自分でやります。毎月家族に仕送りしています。

建設の仕事はやりたくありませんが、みんなには仕事で厳しくしても、同僚が私には優しくしてくれます。だからやりたくなくても頑張りたいと思います。日本は安全だから不安なことはありません。道をまちがえた時、わからないことも隣の人に聞いてちゃんと案内してもらいました

二つ目はびっくりしたことです。日本はどこでも綺麗にしています。どこに行ってもぜんぜんゴミを見ません。日本人はゴミを見るとすぐ拾ってゴミ箱に合わせて分別します。

ここまで読んでくれて、ありがとうございます。今から、もっと頑張りたいと思います。日本語の勉強と仕事もです。



ロホマンさん

(バングラデシュ)

私は山ほどの希望と夢をもって日本にやって来ました。この美しい国をくまなく巡り、あらゆることを探してみたいと願っていたのです。しかし、新型コロナによってその心の高ぶりは砕け散ってしまいました。今の状況では渡航制限もあり、バングラデシュにいる両親のもとに里帰りすることもままなりません。まるで悪夢のようです。しかし、光は必ず暗闇に打ち勝つことを私は知っています。再び鳥のように羽ばたくことができるのです。そのために、いつものようにお互いに協力し合うことが大切です。そして、再び自由に息ができることを願って共に祈りましょう。近いうちにまた日本の探検が再開できることを望んでいます。

スマントさん

(インド)

3年間日本に住んでいて、日本が素晴らしいと思ったことは、コロナの前から、みんながマスクをつけることを積極的にやっていることです。風邪をひいてい

る人やせきが出る人は、他の人に移らないようにマスクをします。これが、日本が安全に過ごせる環境にある最も優れた点です。

今は、(日本でも) 日常の買い物はオンラインでできるようになりましたが、わずかの例外を除いて、ほとんどのサイトで使用できるのは日本語だけです。

また、他の国では、競って配達できる品揃えの幅を広げようとしています(野菜や果物の配達まで)。

(ところで) 年配の人と話す時は、その人がよく知っている言語(その人の自国語)で話すのが一番いいですね。しかし、最近では、たくさんの方がよりよい仕事の機会を求めて世界中を移動しています。そういった人たちが現地語が上手だとは限りません。人々が情報の共有やソフトウェアの利用が円滑にできるようになると、コロナ感染のようなものを防ぐカギにもなるでしょう。そこには、一人一人がどのように行動するか、が大きな意味を持っています。

## ラジさん (パキスタン)

「この1年、日本にいて良かったこと、困ったこと」

日本に来てからこの1年で良かったことは、日本の生活を経験出来たことです。それから日本語の勉強をして基本的な会話が出来るようになって、出かけた



り買い物したりすることが前より簡単になりました。パキスタンにいた時は運動をあまりしていませんでしたが、日本に来てから運動をする人々を見て自分も歩いたり走ったりするようになりました。

困ったことは コロナのせいで自分の旅行の仕事が出来なくなって、日本でも仕事を見つけることがむずかしくなったことです。それからパキスタンにいる家族や友達に会えなくてさみしいです。またふるさと(ギルギット)の高い雪山の景色や山登りすることが恋しいです。

これから日本語の勉強をもっと頑張ってコロナがおちいたら日本人のお客様をパキスタンでガイド案内できるようになりたいです。

## シェリンさん (バングラデシュ)

わたしのははと ぎりのちちは びょういんに はいりました。バングラデシュに かせれないので わたしは にほんで いのりました。にほんは あんぜんですが わたしは かぞくに あいたいです。コロナが はやく おわると いいです。

## メンディさん (スペイン)

「コロナウイルスの状況についての良い点と悪い点」

今のところ、コロナウイルスのパンデミックについて良いことを言うのは難しいです。世界中で多くの人が亡くなりました。世界経済は苦しんでいます。世界中の多くの人々がウイルス対策の心理的影響に苦しんでいます。しかし、良いことは、1918年から1921年のインフルエンザの流行の後、世界の多くの国が公衆衛生システムを開発したこと。それが私は社会に大きな利益をもたらしていると思います。もう一つの良い点は、世界的な災害防止のための国際協力が増えたことです。コロナウイルスは確かに世界を変えるでしょう、そして多分これらの変化のいくつかは良いでしょう。そう



## 李さん (男性) (中国)

「この1年、日本にいてよかったこと、困ったこと」

この1年間について、個人的に感想として、一言でいえば、「決断がつかないで、ぐずぐずする」です。

いろいろな選択に迷っています。例えば、電車で遊びに行くべきかどうかいつも迷っています。テレビを見ていると自粛を呼びかけているので、行かなかったほうが良いと思います。

でも、友達はこちらで遊んでいたことがありますし、大丈夫そうです。例えば、家族は日本に招待すべきかどうか。もし私の招待のせいで、感染したら、後悔しても追いつかないでしょう。ただ、子供は父、母と一緒に生活すべきだと思います。

楽になるところは仕事です。テレワークになったので、時間が自由ですし、正式な服もありません。生活の幸せを見つけるために、頑張らしましょう。

## マダヴさん (ネパール)

### 「この新型コロナの1年間」

私はコロナが始まる前から日本にいます。この1年間で困ったことは、学校とかバイトとかが中止になってしまったこと。いっぱい暇な時間があっても友達に会うこと、旅行に出ることなど何も出来なくなってしまった。が、この世の中、今どこに行っても同じ状態ですから、この学校と仕事が中止になった話は日本にいても他の国にいても同じだと思います。

この1年間日本にいて、よかったと思うことはいっぱいあります。母国と比べて日本には緊急事態宣言が始まっても電車やバスなどが運転をとめないで、急に大事なことがあっても出かけることができます。感染対策をしながら日常に必要な物の買い物もできます。対して母国では厳しいロックダウンがあるから家を出ることができません。とっても大変だそうです。ありがとうございました。



## 李さん (女性) (中国)

世界中にコロナが蔓延したこの1年間、私は中国に戻れなくて、ずっと日本で生活している。日本語教室や全国の学校などもオンラインで授業を行い、学生は外出しなくても勉強でき、これは一番よいと思うことである。コロナのような突然の問題に直面した我々は、どうにか解決策を探し、難関を突破している。これはこの1年間私が一番感動していることである。

また、コロナの影響で、これからオンラインですることが流行ってくると思う。例えば、コロナの影響で、私はアメリカに行かなくても、アメリカにいる友達の研究発表会にオンラインで参加し、聞くことを体験した。コロナの影響で、みんなオンラインでやり、

世界の距離が短くなると思う。

## メーガンさん (アメリカ)

こんにちは。私はアメリカミシガン州の生まれで、日本には12年間住んでいます。子供は二人いてエイドリアン(13歳)ナオミ(10歳)といます。

エイドリアンが1歳の時に日本に来たのでこどもにとっては日本は母国です。私は小学校の教師をしています。

ハイキングや公園で遊ぶことが好きで、コロナ前はアジア内の旅行も楽しんでいました。コロナになってからは国内でキャンプしたり、ドライブしたり、素晴らしい日本を安全に健康に楽しんでます。日本語の勉強を楽しみにしています。

## ヴラディミールさん (スロバキア)

私は、ヴラディミールです。みえちゃん先生の新しい生徒です。日本は、特にコロナのときに住むのにかなり良い場所だと思います。人々はマスクをいつも着用することに慣れてます。マスクはアメリカのように物議を醸すものではありません。私はヨーロッパから来ました。私の家族や友人はずっと苦労しました。彼らはもっとずっと家にいなければなりません。食料品店、薬局、郵便局、または医者に行かなくなりました。子供たちは学校に行きませんでした。そして冬は寒くて暗いので大変でした。コロナウイルスの蔓延はそこではとても深刻でした。日本では、人々の自由に厳密には大きな変化はありませんでした。私は運が良く、学校で教え始めました。そして、仕事でとても忙しかったです。私は教えるのが大好きです。何年もの間、教室に戻りたいと思っていました。生徒たちは私にエネルギーを与えてくれます。



## 王さん (中国)

2020年の10月、新型コロナが流行している時に日本に来ました。中国では国内でワクチンを作ってい

るので、中国にいたらもうワクチンを打っていたと思います。日本は外国からワクチンを買わなければいけないので、私がワクチンを打ってもらうのは、6月より後になりそうです。

でも、日本の良いところは、ゴミの分別をきちんとする、電車が正確、空気汚染が無いことです。日本人は、あいさつをきちんとし、決まりを守るといふところも良いとおもいます。

## ブイさん (ベトナム)

「この1年、日本にいてよかったこと、困ったこと」

あつという間に過ぎた日本でのこの1年間、新型コロナウイルスは落ち着いた時もありますが、今また感染者が増えています。私は大学2年生なのに、昨年度に引き続き、今年度も学校に行けなくなり、オンライン授業を受けています。勉強に関するレポートやテストなどの大変さがありますが、学校に行けないので、普通の大学生活では感じないような恐れを感じます。一方、学校に行けなくても、自分の時間が多くなり、運動や趣味などに使っています。毎日30分ぐらいランニングをするようにしています。日本語の資格を取るための時間もあります。新型コロナウイルスが早く落ち着くのを望み、大学に行けるようになります。これからは新型コロナウイルスに感染しないように自分を守り、勉強も頑張りたいと思います。

## 【スタッフ】

まこさん

### オンライン学習について

新型コロナウイルス感染が収束せずに教室は年明け以降、全く再開できずに今日に至っています。しかしながらスタッフの皆様の努力でオンライン学習を希望する学習者にはほぼ100%対応出来ています。皆様のご協力に感謝申し上げます。

オンライン学習を始めてから毎月学習ノートを送って頂いています。内容は教室におけるノートと同じですが、スタッフ各人の学習内容について目を通

す機会となりました。今まで気が付きませんでした。皆さん様々な工夫をして学習者の期待に沿うように努力されています。或いは学習者の間違いをどう指摘したらよいか悩まれているスタッフもいるようです。そのような色々なアイデアや悩みについて情報を共有出来るような場を提供したいと考えているこの頃です。

うえひろさん

### わが家流 おうち時間の過ごし方

昨年来、わが家で実践して良かったと思う、おうち時間の過ごし方を紹介します。

いずれも一定の機器投資等が必要でしたが、コロナ給付金を有効に活用しました。

1. 毎日行うストレッチ。外国で一人暮らしの娘とビデオ通話で掛け声を掛け合い、オンライン体操を毎日5分程度続けています。



メニューは自己流で、現在は①腕上げ、かかと落とし、②くねくね体操、③がにがに体操、④健康つよぼん体操を各30~60回。ネットで検索すると、ラジオ体操などもいろんなバージョンが公開されており、おススメです。

2. ゲーム感覚のエクササイズ。ビデオゲーム機器とヨガマットを購入し、テレビ画面の前で主にリングフィットアドベンチャーとフィットボクシングというアプリで、筋トレやヨガ、有酸素運動などさまざまなプログラムに挑戦しています。
3. 癒しの時空トラベル。アルバムの写真をスキャンしてデジタル化、クラウドに保存することで、スマホやパソコン等からアクセスが可能になり、家族間で共有しました。リビングや仕事部屋、寝室に設置した音声応答デバイスには、子供たちの成長記録や旅行の思い出がスライドショーで映し出され、癒されます。なお、寝室用にプロジェクターを購入、ビデオを上映しています。
4. ついにキャッシュレス決済。マイナポイントの受け皿としてPayPayに新規登録し、日々の買い物等で活用していますが、これは本当に便利です。

ね。今ではクレジットカードを併用することで、現金の使用頻度が極端に小さくなり、ATMを利用する機会が激減しました。税金や公共料金の支払いや個人間の資金決済、残高チャージがスマホの端末操作だけで可能、操作方法も驚くほど簡単な印象です。

5. 家庭内の棲み分け。夫婦や同居家族の在宅時間が増え、家の中で四六時中顔を突き合わせていると、些細なことで軋轢が生じがちです。このため、お互いに好きなことをして過ごす時間を持つよう心がけ、適度な物理的距離を取ることが推奨されています。わが家でも家事の分担に加え、私は寝室の机にPCモニターを増設して老眼に対応、妻は子供部屋を工房化して手作りマスクや子供用品等の縫製を楽しんでいます。

## じんさん

### 挨拶

「こんばんは!」、「また来週会いましょう」という挨拶がもう20数年続いてきたこの教室から、コロナ禍のために教室が閉鎖され、挨拶も途絶えてしまいました。一方ではリモートによる授業が盛んに行われていて、学習者さんも熱心に勉強されています。教室での授業がなくなるということがこんなにも寂しい事なのか、と初めて実感しました。挨拶で思い出しことがあります。以前タイの方で当時慶應大学生だったポンチャイさんが初めて教室に来られた時のこと、とても緊張して、なかなか教室へ入れずに廊下でかなりの時間いたけれど、やっとの思いで教室に入ったところ、「こんばんは! 外は寒いですか?」という言葉をかけられ、緊張感も飛んでとても嬉しい気持ちになりました、と言っていたことを思い出しました。初めて教室にいらっしゃる学習者さんって随分緊張されているんだなあと思ひ、その話を聞いてからは、教室に入ってくる学習者さんには「こんばんは」と声をかけるように心がけています。そこから、一週間にあったこと、職場の悩み、旅行の話、恋愛相談など様々な話が飛び出してきて、授業前のひととき話に花が咲きます。「一週間に一度、この教室に来るのが楽しみなんです」って言ってくれる学習者さん達には、教室は勉

強をする場でもあり、心と和む場でもあるのだと思います。早くコロナが収束し、「こんばんは」、「また来週ね」とあいさつ出来る日が来ることを願っています。

## としちゃん

### 名前に見る多様性

ホサイン.Sさんの「ホサイン」はお父さんの名前であり、名字ではないそうです。このような風習はムスリムの人たちの間で一般的だと教えてもらいました。モンゴル人の友人も、母国では名字は用いず、日本に来てからは、父親の名前を名字の代わりに使っていると言います。インドネシア人の友人からも同じような話を聞きました。この作文を書いている今、ミャンマーではクーデター後の政情混乱が続いていますが、拘束されているアウンサンスーチーさんの名前はすべて彼女の名であり、名字はないそうです。日本語教室で出会う様々な人たちを通して、私の世界はだいぶ広がったように思います。

## ふくちゃん

### オンライン学習について

李一本さんとのオンライン学習は半年以上になりますが、特に不便に感じたことは無く、李さんともコミュニケーションは問題無く取れていると思います。李さんはテレワーク、私の職場も半数以上がテレワークなので、日常的にオンライン会議を使用していることも背景にあります。オンラインでは、実物をカメラで映しながらの会話や、資料を画面で共有しながら説明出来るなど、オンラインならではの利点もあります。

現在、オンライン会議でよく使う言葉や、仕事で使うわかりにくい略語などを少しずつまとめていますが、ある程度まとまったところで、他の学習者さんにも共有できればと考えています。



## けいちゃん

4月からスペイン出身のMさんとオンラインでの学習を始めました。コロナ禍での彼は、ずっとテレワーク。毎日自炊もされ、運動のため散歩も欠かさないとの事。そして、1ヶ月前から禁煙治療を開始して苦しい中頑張っています。

私もMさんに負けじと、新しいチャレンジとして市民体験農園で野菜づくりを始めました。教えて頂きながらですが、小松菜、カブ、とうもろこし、枝豆など種まきから始め、今はだいぶ大きくなりました。先日はコールラビを収穫し、サラダにしておいしくいただきました。土を耕し、野菜の成長を見守る事がコロナ禍での癒しとなっています。

1年以上も続く不自由な生活ですが、1日も早いコロナの収束を願う日々です

## みえちゃん

### 春色高下無 花枝自短長

暦の上ではすでに立夏(夏のはじめ、太陽暦の5月5日頃)となりました。新緑が目にも鮮やかに映る頃、

YouTubeで[禅語]「春色高下無 花枝自短長」(しゅんしよくこうげなく、かしおのずからたんちよう)に出会いました!

意味は春の景色はどこを見てもきれい。短い枝、長い枝、くねった枝も太陽の光をまんべんなくあびるために色々なかたちをしている。あらためて庭の木々を眺めて、いと美しくおもいました。思いかえすと昨年2月23日、英国Oxford大学のSheldonian Theatreで、ヘンデル生誕335周年記念コンサートにおいて、「メサイア」を歌う予定でした。

出発の前日、横浜に寄港していたクルーズ船から大勢の乗客が降りてくるニュースを見た家族が心配して、旅行の参加を断念するよう懇願するので、2月19日苦渋の選択をしました! 幸い演奏会は大盛況だった



そうで、そのころ現地ではマスク姿は皆無とのことでした!

その後、間もなく日本では初めての「緊急事態宣言」が発出されることになるのでした。自粛生活はあの決断をした日から始まり、今に至っています。一刻も早い収束を願っています!

## あつこちゃん

### 私と手紙

私は手紙を書くことが大好きです。頂くのも嬉しいことです。

東京にコロナ禍の第一回緊急事態宣言が出される少し前、私は高校卒業後全く会う機会がなかった親しい友人に会食の計画を手紙で伝えました。友人からは懐かしさと喜びの返信を頂きました。しかし残念ながらその後状況は良くなり、再び手紙で会合の延期と必ず会う約束をしてお互いに楽しみを先に延ばすことにしました。

ところが先日その友人が急逝したと知らされ、もしコロナ禍がなかったら会うことが出来たのにと驚きと悲しみ、後悔の念で一杯になりました。はからずも亡き友人からの手紙は私の大切な友人の遺品となりました。

インターネットで手早く便利に物事を伝え聞くことの出来る時代、(勿論亡き友人のメールアドレスは分かっていた)なぜ私はとろとろと手紙を書くのでしょうか?

まず書く相手をおもひ浮かべ、その人に合う便箋、封筒を選び(葉書なら選択はもっと広がります)、書く内容は長短、思いめぐらし最後に自分の悪筆の許しを願い、郵政省のおかげで沢山の美しい切手の中から季節に合うものを選んで貼り、必ず封印シールも忘れず、こうして私の手紙は完成します。それをポストに投函するため、散歩がてらの運動、郵便受けに返信があるかどうか見に行く楽しみ、これらの些細な時間が私にとって大きな喜びになっております。

コロナ禍で人と人が会う機会が制限されている今日、ひよっとしたら相手に迷惑をおかけしているかもしれないかもしれませんが、私は手紙を書いて楽しんでおります。



かつちゃん

## 「コロナ禍」のもとで想うこと

「コロナ禍」のもとでのこの一年半余の間、色々なことに思いを巡らせ、心を痛めてきました。個人的には「日本語教室」が開催できず、「スイミング教室」が中止になり、国内外旅行に行けず、たまの楽しみの仲間たちとの「飲み語り合い」もできなくなりました。心を痛め、残念な思いでいることは多々ありました。

「日本語教室」で出会った学習者の方々をはじめ、国際交流をさせていただいている留学生をはじめとした多くの方々、私に比べものにならないくらい大変な日々を過ごされてきたと思います。母国・出身国・故郷への一時帰国をずっとできないでいる多くの方々の頑張りに拍手を送りたいです。

また、この間、「日本語教室」スタッフ・学習者の方々にご協力をいただいて「オリ・パラ」の「ホストタウン」(正式には、国分寺市の「東京2020ホストタウン交流事業」)関連の取り組みを行ってきました。折角、楽しく素晴らしいイベント・取り組みを多々行ってきたのに、「ホストタウン」としての「ベトナム・パラリンピック水泳選手団」の「直前合宿」迎え入れが中止されることとなりました。そもそも、現下の「コロナ禍」状況で「オリ・パラ東京」は開催可能でしょうか?たとえ「オリ・パラ東京」が開催されなくても、ベトナムはじめより多くの国々の方々との国際交流が益々推進されることを望みます。

えみちゃん

Mさん親子とは昨年12月に一回お会いしたのみで、クリスマス休暇に続き新型コロナのための休室になり現在に至っております。お子さん二人(Eちゃん、Nちゃん、Kさんが担当)と一緒に来室、親子揃って「日本語を勉強したい」という意欲に満ちていました。教室の休講、再開についてはその都度メールをしていますが、「カレンダーに書いてあります」と返信がありました。コロナの収束を願うばかりです。

さて私は不要不急の用事以外自宅にてすごしました。(自宅の整理(沢山の不用品を処分しました。)と読書を楽しみました。最近ではカズオ イングロ氏の「クララとおひさま」を読みました。いずれ、このよ

うな時が遠からず訪れるのでしょうか?

ミッチーさん

## 学習者マダヴさんのこと

マダヴさんは日本の定時制高校に進学したいと、勉強しているネパールの青年です。

私は過日、テレビでネパールの首都カトマンズで3人の若者にインタビューする番組を見ました。この3人組はそれぞれ民族、宗教、言語が異なるにもかかわらず、とても仲良しだとのこと。彼らの飾らない表情から豊かな人間性を感じると同時に、そこにネパールの国民性を垣間見た思いがしました。

コロナ禍蔓延の昨今、地球上には排他的な「自国第一主義」の国々が散見されます。それだけにこの若者たちの包摂的な人間性に驚き、ホッとさせられます。マダヴさんの人柄の良さは、このような国民性の上に培われたのだと感得しています。

なほさん

もとは東京都中野区育ちの都会っ子。学生時代はいばらきけんおおあざくらむら けっこん ところざわし ひがしむらやまし 茨城県大宇桜村、結婚して所沢市、東村山市そして19年前に国分寺市に定着。

仕事と家事と子育てに明け暮れていましたが、3年前にようやく一段落。子供の授業料支払いという呪縛から解放され、自分への挑戦の日々が始まりました。水嫌いで海嫌いがスキューバダイビングのライセンスを取ったり、大の勉強嫌いが「日本語教師になるぞー!」と、一念発起。老眼に鞭打って、テキストの山と格闘。E-Learningと対面授業の勉強が始まったものの、昨春の1回目のコロナ緊急事態宣言に引っかかり回され日程は延び延び。猛暑の2ヶ月はヒーヒー言いながらも何とか教育実習を乗り切り、2020年秋に日本語教師養成講座420時間を無事修了と思いきや、就職活動もままならず、軽い燃え尽き症候群となっていました。友人の後押しもあり、とにかくなんでも良いから行動せねばと11月から水曜夜教室に参加させていただいています。

そしてまた、コロナ、コロナ、コロナ…本当にいつになったら収束することやら…。まあ、コロナのおかげでZoom授業とやらをなんとか始めることができ

ましたし、週に1回の学習者さんとの時間もとても充実していますし、これもよい経験と思い、「不都合を都合よくしていく能力を養っていく時期」なんだと、勝手に妄想しています。

## たかさん 私の趣味



私の趣味は読書である。このように書く履歴書の趣味欄に仕方なく書いたような趣味に思われがちだが、実際趣味なのだから仕方がない。鞆の中には必ず文庫を忍ばせておいて通勤通学の際に読むほどである。昨年はコロナ禍で時間があるにも関わらず図書館が閉鎖されたため、中央線沿線のブックオフを巡り100円の本を漁っていたが、図書館が再開されたので、恋ヶ窪、並木、光、本多を自転車で回っている。若いころは様々な本を読んできたが、最近では推理小説ばかり読んでいます。現在はエラリー・クイーンという作家の古典的推理小説をガシガシ読んでいます。

もし推理小説好きの方がいらっしゃったらぜひお勧めをお教えください。あ、実は国内の小説のほうが好きです。よろしくお願ひします。

## もこさん

### 長い自粛生活（コロナとじこもり生活）の中で思う

今日も「不要不急（生きるためにすぐには必要のない用）の外出はさけて・・・」のアナウンスがまた流れている。自分にとって不要不急というのは何だろうと考える。しかし考えつづけると結局は「自分が生きている」ということが最も不要不急なのではないかとなる。プルプルと首をふり、途中で引き返す。そして、生きるために必要なことは何かと問い直す。そうすると食べる、住む以外にも生を充実させるために必要ないろいろなものがはっきりしてきている。

また世の中には、長く自粛生活を強いられる（無理にやられる）とき、いろいろなきしみが現れて、見えにくかった差別やゆがみが現れ、一番弱い立場の人や、システムがはっきりしてきた。たとえば、女性の仕事や、まずしい子ども、見すごしてきた外国

からの労働者など。

これからコロナ禍が落ち着いた後の社会はどうなるだろうか。今、身の回りの不要を意識している目、感覚で見つめ直すことができる。思いきって新しい感覚で生きられて、そして世の中は変わっていけるとおもふ。

## こんちゃん この頃のこと



外出することが少なくなった日々は庭仕事に向かっています。主には草取りと季節ごとの花の植え替えで、外の空気を存分に味わっています。

午後はここ数年はまっている「北欧ミステリー」の読書タイム。主にはスウェーデン作家が多いのですが、アイスランド等もあります。他の欧米とは違った地名・人名に戸惑いながら地図帳で確かめる楽しみを知りました。10月からじめじめとした雨の多い長い冬（ブーツではなく、長靴が必要）、夏は休暇をとり海に近い別荘で太陽を浴びて過ごす日々。

面白いのはEUになる以前から国境の概念が希薄なことです。例えばマルメ（南スウェーデンの地方都市）から夜のお食事を楽しむためにデンマークのコペンハーゲンに出かけ、夜遅くに帰るなど。（船だったり、最近では橋を車で渡ったり）関税が高い北欧ではビールの買い出しにタリン（エストニア）へフェリーで通ったりします。（7年前タリンで乗った船には24本入りのビール箱を10箱カートで運ぶ屈強な男性たちがヘルシンキで降りるのに出くわしたことを思い出しました）わが居間での北欧体験を楽しんでいます。

## かじさん

### コロナ禍 教室運営をして

通常なら夏休みの昨年8月から12月まで教室を開設した。入室時にアルコール消毒・検温、暑い夏・寒い冬も窓を開けて、1テーブル1組に限定、アクリル板を設置した考えられる対策を行った。8月は参加者も少なく安心できたが、だんだんと人が増えて、教室の追加も行った。授業に熱が入ると、アクリル板の横から話をしたり、アクリル板を脇にどかした

りする組もありひやひやしたが、何事もなくて良かった。

## 【新しいスタッフ】

昨年4月以降に加わってくださっている  
スタッフをご紹介します。



### まるちゃん

2020年10月から水曜日夜の日本語教室にボランティアスタッフとして参加しているMと申します。実は7~8年前に2年間ほど参加したのですが、仕事の関係等でできなくなり、このたび久しぶりに再開した次第です。長野県出身です。

高校時代に約1年間米国に留学し、受入れ家族や学校の先生、友人達のおかげで人生が変わる体験をしました。私も海外から日本に来ておられる方々が有意義な経験をされるように少しでもお役に立てればと願っています。日本語を外国語として教えるのはチャレンジングですが、言葉の学びを通じて交流が広がっていくのを楽しみにしています。

### ゆうこさん

日本語ボランティアのYです。海外で生活していたとき、その国の友達に助けられました。日本で生活する海外の方のお手伝いができたらいいなと思っています。試験のための勉強は苦手ですが、body language の会話は得意です。インドネシアパティックの再開を夢見しています。よろしくお願ひします。

### たかさん

昨年の12月より参加させていただきましたFと申します。そのうち参加したいと思い、国分寺市国際協会の会員には4年ほど前から加入しておりました。しかし水曜日は都合が悪く参加できなかったのですが、昨年のコロナ禍によりスケジュールがかなり変更となったため参加できるようになりました。一応日本語を教える仕事をしており、留学生の入国が制限されている現在、なかなか厳しい状況です。また、5年前に帰国するまでタイで日本語教師をしておりました。私は寒いより暑いほうが好きですの

で快適でした。とはいえ南のほうの出身ではなく、生まれは国分寺で、もうご存じの方は少ないと思いますがW幼稚園出身です。どうぞよろしくお願ひ致します。

### ちよちゃん

私は、昨年の9月から参加させていただきました。国分寺市の養成講座を受けた時に、日本語を教えるのは難しいと感じましたが、実際にやってみると、多少の知識ではうまく対応できないことを強く感じました。学習者さんとお話するのはとても楽しいのですが、分かりやすく説明できなくて、申し訳ないと思うことが多いです。いつも学習者さんの熱意に励まされて、どう教えるとよいか勉強している状態です。

最近、私自身も英語の勉強を始めました。なかなか上達しませんが、言いたいことを英語で言えないもどかしい気持ちを体験できたのは、ひとつの成果かもしれません。両方とも、こつこつと根気よく続けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

## ☆スタッフ募集

私たちと一緒に外国人の方に日本語を教えてください。ボランティアを募集しています。ご興味のある方は以下にご連絡ください。



国分寺市国際協会事務局

〒185-0034

国分寺市光町1-46-8 ひかりプラザ1階

TEL:042-505-6132 FAX:042-505-6138

E-Mail:kia@mrj.biglobe.ne.jp

日本語でお困りの外国人の方

国分寺市国際協会日本語教室では、外国人の方が日本語が学べるように日本語教室を開催しています。お気軽にご相談ください。

水曜日 (19時~21時) 金曜日 (10時~12時)